

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立大垣東高等学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年6月16日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 岐阜県立大垣東高等学校会議室
- 4 参加者

会長	高橋 利行	岐阜協立大学副学長
副会長	田中 信康	サンメッセ総合研究所代表
委員	古田三十子	赤十字奉仕団南分団長
	村木 芳史	育友会長
	柳 江里子	育友会生活委員長
	堀田 一浩	大垣市立南中学校長
	星野 恵里	大垣青年会議所総務委員
	(委員のうち2名御欠席)	
学校側	石神 政幸	校長
	河添 孝司	教頭
	川瀬 和仁	教頭
	岩田 肇	事務長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営の基本方針について

ア スクール・ポリシー策定の説明

イ 令和3年度岐阜県教育委員会の基本方針の説明

ウ 学校運営の基本方針の説明

意見1: 本日は1年生の授業参観をした。今後、自分が目指す社会人像、職業等の目標をもって学習に臨んでもらいたい。

意見2: 中学卒業後2ヶ月しか経っていないにもかかわらず、深い内容を主体的に学習している姿を見てありがたいと思う。地域の学校として中学生の憧れの的となるような人材育成をさらにしてほしい。

意見3: ICTを活用した教育は推進すべきである。また、どこを目指すのかがしっかり定まっていないと組織がばらばらになってしまうので、「べき論」を掲げることが重要である。SDGs学習に関わって思うことは課題発見・解決能力を高める必要性である。

意見4: (校訓「仰峯不屈」に絡め) 山を登り切ることも大事だが、落ちることもある。高校生のうちにそこを乗り越えられる、それでも進んでいくことができる強い気持ちがあるような指導もしてほしい。また、官と産を絡めて地元を大事にしてい

く気持ちも育ててもらいたい。

意見5：教育の本質を見極めた上でのICTの活用が必要である。本日参観した授業のように用いる題材の工夫を一層してほしい。

(2) 外部団体との連携について

ア 今年度の外部団体との連携の説明

意見1：外部団体との連携に積極的であることは評価できる。地元の企業と連携した学習をとおしてふるさとを大切にする気持ちの醸成に繋がっている。生徒にとって有意義な連携としてほしい。

意見2：中学校で行っている知識吸収を主眼としたふるさと学習をベースに、高校でさらに発展させることによって一貫性が生まれ、中高連携にも繋がる。

意見3：大垣駅前、南地区の状況や、児童数の減少傾向を思うとき、小中学校、高校が連携して地域をもり立てていけたらよいと思う。

意見4：動きのある活動をとおして、自分自身が変わっていくこと、発信していくことに恐れず、自分から動ける人になってほしい。連携の成果も確認したい。

(3) 生徒心得（校則）について

ア 生徒心得（校則）の説明

イ 規定の改正又は廃止の手続きの説明

意見1：校則に関しては中学校でも見直す機会を設けている。「らしく」という考え方が通用しなくなっている。一緒に考えること、プロセスが大切である。高校からの情報提供は必要である。

意見2：校則に関しても、自分で考えて決定し行動させたいというプロセスを大切にする学校の思いは共感できる。多様性、人権にも関わる問題である。

意見3：今後の流れはどのようなようであるか。

⇒本会でいただいた意見も踏まえ、生徒たちからも意見を聞こうと思っている。

(4) 今後の予定について

ア スクール・ポリシー策定に向けて、今後の流れの説明

6 会議のまとめ

(1) 今年度の本校の学校運営基本方針について、出席の全委員より承認が得られた。

(2) スクール・ポリシー策定に向けて、出席の全委員との情報共有ができた。次回の会議において学校側より提示する原案の議論を行うことを確認した。

(3) 外部団体との連携について、出席の全委員との情報共有ができた。次回の会議においてその進捗状況を報告することを確認した。

(4) 生徒心得（校則）について、意見交換をとおして出席の全委員との情報共有ができた。